

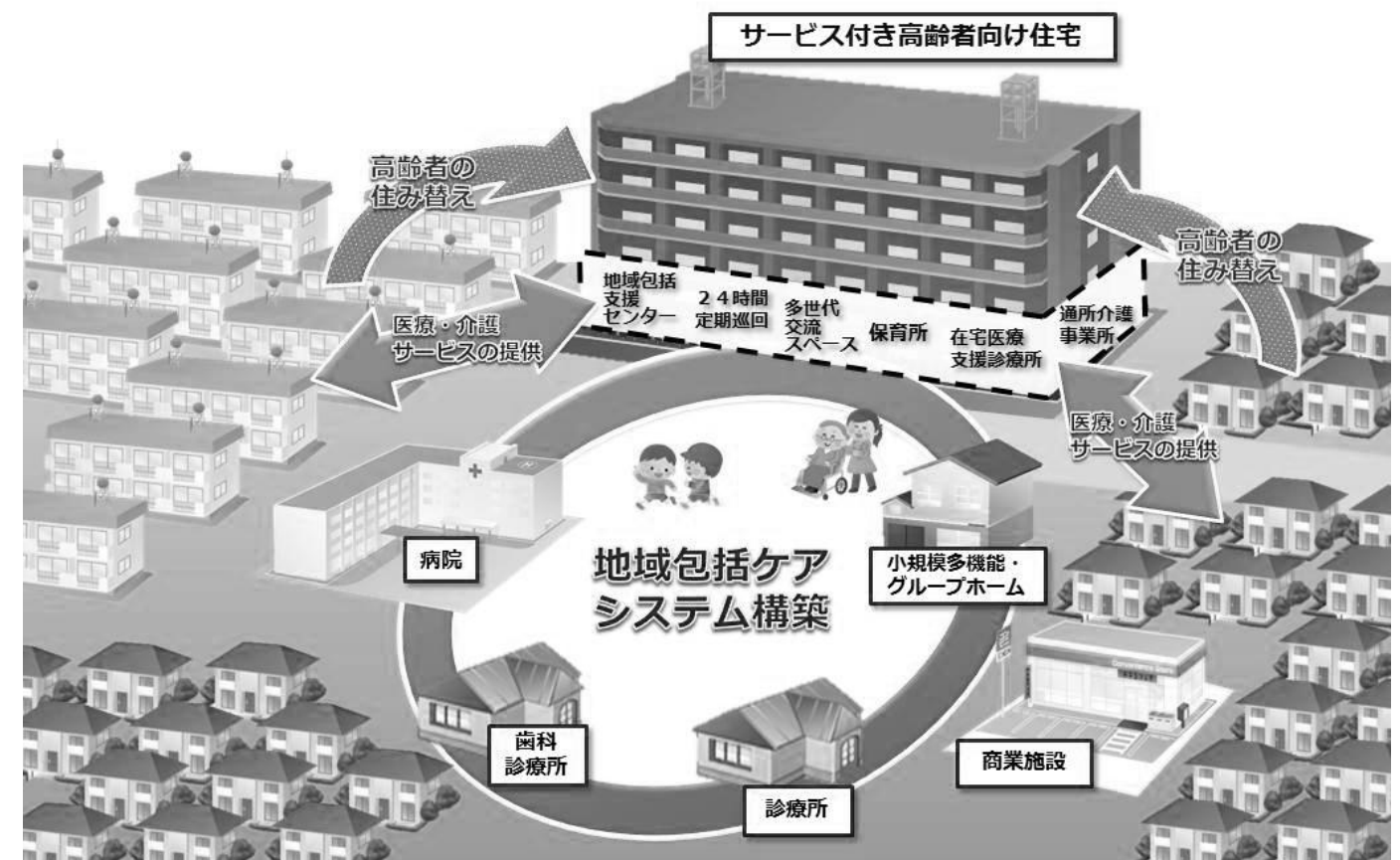
団地モデルについて

1 団地モデルの考え方

目標 高齢者が、医療・介護等の支援が必要になっても、この地域で安心して住み続けられるようにする。

団地の特徴
<ul style="list-style-type: none"> ○ 団地の開発・供給時に一斉入居した居住者が、一斉に高齢化するなど、高齢化率が高い。 ○ 元々核家族が多く、成人した子供は新世帯を設けるため、高齢の単身世帯や夫婦のみ世帯が多い。 ○ 賃貸住宅は老朽化しているが、建て替えは困難なケースが多い。
↓
団地モデルのコンセプト
<ol style="list-style-type: none"> 1 現在の住居では生活が困難な要介護・要支援の高齢者の住み替え先（例：サービス付き高齢者向け住宅・県営住宅の活用）を確保し、ここに高齢者の各種相談先（例：地域包括支援センター）や診療所、介護事業所等を併設し、医療・介護サービス等の拠点とする。 2 高齢者間だけでなく、多世代の交流が重要であり、その交流を図るためのスペースや事務局機能を地域内に確保する。 3 生活必需品が購入できるよう、地域内に買い物場所を確保する。

イメージ例



2 団地モデルを作っていく上での課題について

団地モデルの考え方		石尾台・高森台地区における主な課題
○通常の地域包括ケアシステムの構築 (医療・介護・予防・生活支援の一体的な提供)		<ul style="list-style-type: none"> (1) 高齢者や家族等が気軽に相談できる場所の確保 (2) ICTを活用した医療と介護の連携(病状、服薬、バイタルサイン等の情報の共有) (3) 在宅医療(訪問診療・訪問看護)、定期巡回・随時対応サービス等の充実 (4) 高齢者の健康づくり・介護予防の充実 (5) 高齢者の見守りなど生活支援の充実
特に重点的に取り組む事項	1 高齢者が安心して暮らせる住まいの確保	<ul style="list-style-type: none"> (1) エレベーターが設置されていない賃貸住宅居住高齢者への対応 (2) 高齢者の住み替えニーズへの対応 (3) 空き家(住み替え後の住居を含む)増加への対応
	2 高齢者の活力を活用した、あるいは高齢者の生きがいに繋げる多世代の交流	<ul style="list-style-type: none"> (1) 交流場所の確保 (2) 高齢者と園児、児童、障害者等、多世代との交流機会の充実・拡大 (3) 元気な高齢者がボランティア等により他の高齢者等を支援する活動の創出
	3 買い物場所の確保など、新たなまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> (1) 買い物場所の確保 (2) 若い世代の移住が促進されるような魅力あるまちづくり・住宅施策